

平成28年度第1回江別市スポーツ推進審議会開催結果

1. 開催日時

平成28年10月5日（水）午後3時30分～午後4時30分
江別市教育庁舎大会議室

2. 出席者

・スポーツ推進審議会委員：9名

金内晴夫 会長、増山尚美 副会長、小林照美 委員、小野善弘 委員、
原 大輔 委員、山下和人 委員、松田和子 委員、佐藤敦子 委員、袴田丈晴 委員
（欠席：横山聡 委員、山田浩人 委員）

・教育委員会事務局：6名

渡部教育部長、萬教育部次長、三浦スポーツ課長、
星野スポーツ係長、渡辺主査、可児専門員

3. 開催結果

（1）開 会

委員の過半数の出席を確認し、スポーツ課長が開会を宣言。

（2）挨拶

金内会長からあいさつ

（3）教育部長挨拶

教育部長からあいさつ

（4）委員・職員紹介

（5）報告事項

報告事項（1）平成27年度スポーツ関係事業報告について

- ・スポーツ係長から、資料に基づき説明した。

○スポーツ係長：

はじめに、教育委員会が行った事業について報告する。まず、学校体育施設開放事業であるが、社会人体育団体学校開放事業は、学校運営に支障のない範囲で、体育館及びグラウンドを市民のスポーツ団体の活動場所として提供する事業で、平成27年度は、

24小中学校を138団体に開放し、利用者数は延べ14万5,746人であった。

次の体育施設開放事業（学校体育館土曜開放）は、10の小学校の体育館及びグラウンドについて、土曜日の午前を地域の児童生徒のスポーツ活動場所として提供するもので、利用者数は延べ3,750人となっている。また、体育施設開放事業（学校プール開放）では、夏休み期間中、15の小学校のプールを開放し、利用者数は、延べ11,102人であった。土曜開放とプール開放は、前年度に比べ利用者が増加している。

次に、スポーツ普及奨励事業の、青少年スポーツ賞顕彰であるが、スポーツ賞は、高校生以下を対象にし、全国大会で3位以上の成績を基準としており、7個人、2団体を表彰した。スポーツ奨励賞は高校生以下で全道大会1位の成績を基準としており、16個人、13団体を表彰した。教育委員会表彰は、小中学生で全道大会2位又は3位の成績を基準としており、21個人、7団体を表彰した。

次の、スポーツ大会出場奨励金交付は、予選を経て全道大会規模以上の大会に出場する市民に対し、負担の軽減を図る目的で奨励金を支給するものである。国際大会では個人2人に、全国大会では個人29人と13団体に、全道大会は個人54人と5団体に、それぞれ奨励金を支給した。

次に、スポーツ振興に関する事業であるが、屋外体育施設管理運営事業は、はやぶさ運動広場内の少年野球場、テニスコートなどと、第二中学校に冬期間特設するスケートリンクの管理運営を江別市スポーツ振興財団に委託したものである。

スポーツ大会等振興補助事業は、江別市スポーツ振興財団が実施するスポーツ大会や健康体力づくり指導相談などの事業に係る補助金で、4,463万1千円を交付している。

次に、体育団体補助金であるが、江別市体育協会と江別市スポーツ少年団が実施する事業に対する補助金である。

次に、地域スポーツ活動活性化促進事業であるが、学校レクリエーションや自治会などにおいて、スポーツ推進委員の指導の下、軽スポーツを実施し、この普及を目的とする事業で、2件、延べ131名を対象に実施した。

3市交流スポーツ大会開催事業であるが、札幌市厚別区と北広島市と当市との交流事業で、平成27年度は家庭婦人スポーツ交流大会を開催したものである。

次に、スポーツ施設改修整備事業の体育施設整備更新事業であるが、4つの体育館、3つの屋外体育施設に係る修繕工事費と備品購入費である。大きなものとしては、市民体育館のバスケットゴール1組の更新を行った。

また、体育施設耐震化については、大麻体育館第1体育室の耐震改修実施設計委託に要した経費である。

次の市民体育館改修整備事業は、柔剣道室の窓枠改修と空調機器の改修工事費である。

最後に、体育施設の指定管理事業であるが、市民体育館など屋内4体育施設は江別市スポーツ振興財団が、あけぼのパークゴルフ場及び森林キャンプ場についてはエコ・グ

リーン事業協同組合が指定管理者として、それぞれ管理運営を行ったものなどで、指定管理料は合わせて1億9,226万8千円である。

資料3ページから6ページは、一般財団法人江別市スポーツ振興財団が行った事業である。

ただいま説明した指定管理に係る事業や、スポーツ大会等振興補助金に係る事業、自主事業として行っているものを記載している。詳細の説明は省略するが、事業内容は記載のとおりである。各種スポーツ教室やスポーツ大会を開催したほか、健康体力づくり指導相談事業、スポーツ指導者養成事業、体育施設管理運営事業を実施している。

(質疑等 → なし)

報告事項(2) 平成27年度スポーツ施設利用状況について

- ・スポーツ係長から、資料に基づき説明した。

○スポーツ係長：

資料7ページは平成23年度から平成27年度までの5年間の当市の各体育施設の利用実績である。

平成27年度の利用者数について、屋内施設では、4体育館合計で、平成26年度の利用者数を上回っており、前年度比42,769人増の49万2,531人となっている。これは、平成26年度に市民体育館の耐震化工事により体育室を半年間休館とした影響もあるが、それ以前に比べても2万人程度増加している。

屋外施設については、都市公園内の少年野球場やテニスコートなどの利用者数であるが、合わせて10万63人と前年までに比べ、増加している。

森林キャンプ場は、1万1,006人で増加傾向となっている。あけぼのパークゴルフ場は、3万81人の利用でやや減少傾向となった。

このほか、特設スケートリンクと学校体育施設開放事業の実績は記載のとおりであるが、最後の当市のスポーツ施設利用者実績の総合計は、81万1,870人となっており、昨年までの減少傾向から増加に転じた。

(質疑等 → なし)

報告事項(3) 平成27年度江別市スポーツ推進計画推進状況について

- ・スポーツ課長から、資料に基づき説明した。

○スポーツ課長：

第5期江別市スポーツ推進計画は、第6次江別市総合計画の個別計画と位置づけ、計画期間を平成26年度から平成30年度までの5年間とし、誰もが健康で心豊かな生活を送ることができる生涯スポーツの実現を目指すために策定した。

本計画の推進には、各施策の実施状況や達成状況、効果・課題について、PDCA サイクルの考え方に基づいて、点検・評価を行い計画に反映させていくこととしているので、平成27年度における「成果指標」の結果と今後の推進の方向性について、報告する。報告する内容については太枠で囲まれた部分である。

「基本目標Ⅰ：生涯スポーツの推進」であるが、生涯各期におけるスポーツ活動の機会提供と充実として、各種スポーツ教室を開催し、各年齢層別のメニューを提供した。各領域におけるスポーツ活動の充実と関係機関・団体との連携としては、学校開放事業など、スポーツ活動機会の提供を行った。スポーツ教室はメニューの見直しを行ったことにより利用者は増加し、学校開放事業は、各団体の会員の減少により利用者数は減少傾向であるが、利用団体は横ばいであり、各団体の活動は、活発な状態が維持されている。週1回以上スポーツ活動に親しむ市民割合は37.8%であるが、年代別にみるとバラつきがあり、50代以下の成人でスポーツをする割合が低い状況である。

今後の推進の方向性であるが、仕事や育児などでスポーツをする時間がなかなかとれないなど、各年代によりニーズが異なるため、より多くの市民がスポーツ活動に親しむことができるよう、市民ニーズを的確に把握し、関係機関と連携して魅力ある事業の提供に努めていく。また、関係団体と連携し、スポーツ合宿誘致に取り組み、合宿で訪れるアスリートと市民との交流を通じたスポーツ振興を図っていく。

「基本目標Ⅱ：地域スポーツ活動の推進」であるが、地域スポーツ活動の活性化のため体育協会やスポーツ少年団の活動に対する支援のほか、軽スポーツの出前事業を実施し、気軽にスポーツに親しめる機会を提供した。各スポーツ団体は、少子高齢化の影響を受け会員数は、伸び悩んでいる状況であるが、それぞれの団体は活発に活動しており、全道・全国大会でも多くの選手が活躍している。スポーツ機会が充足していると思う市民割合は57.6%と減少しているが、年代別で見ると若年層の方が充足していると感じている割合が高くなっている。今後の推進の方向性であるが、活動団体の活性化促進のため、体育協会やスポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ等に対し、指導者育成等の支援を継続して行っていく。また、スポーツ・健康づくりの活動機会に関する情報提供や相談体制の充実に努め、スポーツを通じた健康寿命の延伸を図っていく。

「基本目標Ⅲ：スポーツ環境の整備・充実」であるが、災害時の避難所としても重要な社会体育施設の計画的な改修として、大麻体育館第一体育室の耐震改修実施設計委託などの施設改修を行い、スポーツ・レクリエーション活動の環境整備をした。市内の屋内体育施設は、建築から30年以上経過したものが多く老朽化対策が課題となっており、順次改修整備を進めているが、スポーツ施設整備の満足度は低下し56.6%

となった。今後の推進の方向性であるが、大麻体育館の耐震化、長寿命化を行い、安全で快適に利用できるスポーツ環境づくりを進めるとともに、指定管理者と連携して利用しやすい施設運営と適切な管理を行っていく。

(質疑等)

○議長（金内会長）：

スポーツ機会が充足していると思う市民割合は 57.6%と減少傾向にあり、全体的には子どもたちがスポーツをする場所が減っているのではないかと思う。平成 28 年度もすでに半分進んでいる状況ではあるが、他に何か感じていることはないか。

○山下委員：

施設利用の人数が平成 27 年に増加している理由は何か。

○スポーツ係長：

正確には分析していないが、近年トレーニング室の利用が人気で増えているということが実態としてある。

報告事項（4）平成 28 年度スポーツ関係事業について

- ・スポーツ係長から、資料に基づき説明した。

○スポーツ係長：

まず、今年度、教育委員会が行う事業について報告する。ここでは内容に変更のあった事業、新規の事業について説明する。

社会人体育団体学校開放事業については、江別小学校の廃校に伴い、野幌小学校と江陽中学校の 2 校を今年度から開放し、差引プラス 1 校で 25 校の開放を実施している。

表の中段やや下にある全国大会等開催補助事業については、記載のとおり市内で開催される、ホッケー、9 人制バレーボール、軟式野球の全国大会への補助である。

次の、3 市交流スポーツ大会開催事業は、札幌市厚別区、北広島市、江別市の交流事業であるが、今年度は江別市内での開催がないため、予算額はゼロとなっている。

次の、スポーツ合宿誘致推進協議会関連経費については、平成 27 年度に引き続き、合宿誘致にかかる情報収集・PR 活動にかかる旅費と、今年度から実施している合宿に訪れる道外の団体への支援策として、空港から宿泊地・練習会場への輸送バスの提供、野幌運動公園などの会場使用料の補助、江別市特産品の提供の経費である。今年度のこれまでの実績としては、高校 3 校と大学 1 校の野球・バスケットボール・フィールドホッケーのチームが訪れ、各種支援を行った。また、それぞれ地元チームとの交流試合な

どを実施し、本市にとっても有意義なものとなっている。

次の、体育施設整備更新事業は、通常の維持補修に加え、昨年度に引き続き市民体育館のバスケットゴール1組を更新するものである。

次の、体育施設整備更新事業（体育施設耐震化）は、大麻体育館の第1体育室の耐震改修工事とトレーニング室棟の実施設計を行うものである。現在、工事中で第1体育室は12月末まで休館となっており、来年度にトレーニング室棟の改修工事を行い、大麻体育館の耐震化が完了する計画としている。

また、市民体育館改修整備事業は、雨漏りのあった卓球場の屋上防水と天井の改修工事を行うものである。大麻体育館改修整備事業は、第1体育室の耐震改修工事にあわせて、天井断熱材の改修工事と屋上防水工事を行うものである。

12ページから14ページにかけては、スポーツ振興財団が行う事業である。指定管理事業、受託事業、補助事業については、それぞれ記載のとおり、前年度同様の事業を予定しているものである。

平成28年度は、屋内体育施設の指定管理の3年目となり、受講者ニーズを踏まえたスポーツ教室の改善や、平成26年度から開始の自主事業で子育て支援にもなる親子で遊べる場を提供するなど、好評なものは今年度も継続し、内容の充実を図っていくと聞いている。

なお、これらの詳細については、スポーツ振興財団の広報紙を参照願う。

（質疑等）

○佐藤委員：

14ページ（3）スポーツ指導者養成事業については一般市民向けであるのか。それとも団体に所属している人向けのものなのか。

○スポーツ係長：

スポーツ振興財団で広く募集をしており、一般市民も参加可能である。関係団体にも案内を出しており、既に指導者である人も参加可能である。

協議事項（1）体育施設の課題整理等について

・渡辺主査から、資料に基づき説明した。

○渡辺主査：

先ほどスポーツ課長から報告したが、スポーツ推進計画推進状況の中で、基本目標Ⅲにあるスポーツ施設整備の満足度が基準値から下がっている。活動の機会が充足していると考えている市民割合も下がってきている。反対に、利用者数については上がってき

ている状況である。これらのことから、屋内施設は設置してからかなり年数が経っており、老朽化しているため、これからどのようにしていくべきか考えなければならないということが一つの大きな背景にあることを認識頂いた上で説明を聞いて頂きたい。

最初に資料4は、市立施設、道立施設、大学施設、学校開放施設について、どのような配置現況となっているかを表わした図である。施設を中心に徒歩等で移動できる条件として、1.5km圏、1km圏にそれぞれ区別して表わしている。なお、屋外施設については、これらの圏域内に含まれているものを除いて、公園施設など圏外にあるものは表記していないものがある。市街地においては、空白部分が少なく概ねカバーされている状況にあることが読み取れるものと思われる。ただし、学校においては主としてスポーツ団体に開放している状況であるため、一般市民が気軽に使用できる状況になっているとは言えず、今後の課題であると言える。なお、資料5については、市内の主要公共体育施設を紹介したものである。

これらのことを踏まて、資料1の上段には、諸課題の対応に際して、施設づくりの基本的な考えや方向性について表記している。

一つ目は、多様性に配慮した施設づくり。ここでは、対象者と活動の目的やニーズ等多様な選択に応えられる配慮の必要性について述べている。二つ目には、施設の用途や必要な機能に合った施設づくりへと転換することについて述べている。集客性や総合性が求められる施設や身近にあり、容易に利用できる施設など、施設の役割や性格、主要な用途等に応じた施設環境づくりの必要性を述べている。

下段部分については、上段の事項を踏まえ、具体の施設づくりの方向性を大きく3つに分け、各々の区分けに対応する市内施設をそれぞれ位置づけ、今後の課題解決や改善策等につなげていこうとするものである。

次に資料2の16～17ページには屋内施設、18～19ページには屋外施設に区分けして表わしている。それぞれ表の左側に、設置者を区分しているほか、市立施設については、総合、地区などの区別や耐震整備の状況等を表わしている。

また、表の中間から右側には施設ごとに主要な施設の表示と課題や改善の方向性、検討事項等に関連した考え方をそれぞれ表している。なお、大枠での方向性については、星印をつけ、網掛け、強調する形で表している。

特に資料1で「総合性を追求する核施設」に位置づけした市民体育館及び青年センターについては、具体的な課題等に即した改善検討策など、現時点で考えられるものについて検討例としてそれぞれ列記している。

野幌総合運動公園については整備要望として考えられる点を、民間施設や大学施設等については市民利用の枠組みを検討するといった視点で整理した内容を書き表している。屋外施設についても同様な表記の仕方をしており、現時点で特筆すべき課題と考えられる一部施設については、具体の方向などについて表している。

今後の対応スケジュールについて、資料3は今年度中の対応予定について大まかに表

したものとなっている。

なお、只今説明した内容については、現状を踏まえつつ、今後のハード面の整備をどのような視点で捉えていくべきかといった観点から、あくまでも検討の方向性についての「たたき台」として整理したものであるので、欠落している視点や新たな視点で取り組む必要がある事柄など、数多くあると思われる。

それらを含め、方向性の整理など、今後、審議会等あらゆる機会を通じて委員のご意見やご提言をいただきたい。

(意見・質疑等)

○議長（金内会長）：

市民体育館の柔剣道室の競技別の専用化について、柔剣道室はジャズダンス等のサークル活動にも利用されており、利用度は高いが、専用の施設をつくと利用度が下がる懸念がある。ただ、江別市内には柔道専用室がないため、大麻体育館は畳を敷いたままではないし、畳を敷いたままにしている柔道室も必要ではないか。近年柔道はオリンピックでも盛り上がってきているので、視野に入れて話を進めていきたい。

○渡辺主査：

これは例であるが、卓球場・弓道場・相撲場など従来から要望はあるので、市民体育館の空いている土地を活用するという観点も検討事項に含むものとする。

○議長（金内会長）：

卓球は空スペースを活用しているが、床にクッション性がなく、足首に負担をかけてしまっている。空いているところ利用すれば良いということではなく、施設の改善も必要である。

○山下委員：

すでに民間施設との協議は進んでいるのか。

○渡辺主査：

民間施設との協議については、具体的な動きはしていない。スポーツ合宿推進の取組で市内各大学とのつながりもでき、施設を見学させてもらっている。オール江別という考えで、大学の運営上、市民が活用できるなら我々も大学や民間施設に理解を得られるような仕組みを考えながら相談させていただこうというのが現段階の状況である。

○副議長（増山副会長）：

北翔大学のスポルクラブは市民に活用していただく目的の施設である。しかし、私立

大学の場合は学生から施設使用料を徴収しているので、外部の方が利用する一般開放を行う場合は料金徴収や安全管理責任の所在などが問題となってくる。

○渡辺主査：

様々なハードルがあるので、各々大学や民間の施設との折り合いをつけながら進めていきたい。

○副議長（増山副会長）：

岩見沢教育大学と岩見沢市は非常に密接にしており、うまく実践されているという例もある。

○渡辺主査：

市内各大学には非常に立派な施設があるので相談にのってもらうことから始めたい。

（6）その他

○議長（金内会長）：

その他、何かないか。

○教育部長：

老朽化している青年センターは、第一小の児童が青年センターのプールを利用しており、今後青年センターを市としてどのように管理していくのか。現状の場所で引き続き修繕しながら使っていくのか、建て替えるのか。建て替えるのであれば場所はどこがいいのか。プール施設をつくるのか、立派なアリーナをつくるべきなのか。次期スポーツ推進計画の策定も控えているので、委員の皆様から多くのご意見をいただきたいと考えている。

○スポーツ課長：

次回、第2回審議会の日程は1月末頃を予定している。

（8）閉 会

午後4時30分終了